



三角小だより

12月号

ふじみ野市立三角小学校
令和7年11月28日

【学校教育目標】

ゆめのある子

- ・かしこい子 (知)
- ・やさしい子 (徳)
- ・たくましい子 (体)



「支える姿、つながる心」

校長 湯本 貴幸

過日行われました校内音楽会では、インフルエンザ等の流行が心配されたものの、おかげ様で盛大に開催することができました。多くの方にご参会いただきましたこと、この場を借りて感謝申し上げます。また、学校応援団をはじめとする保護者の皆様、地域の皆様、ご支援、ご協力ありがとうございました。開会のあいさつの中でも申し上げましたが、限られた授業時間（練習時間）の中で、一生懸命取り組んできた子供たちのがんばりが、少しでも皆様に感じていただくことができたのなら、校長としてはとても嬉しく思います。

さて、冷たい風に冬の訪れを感じる季節となりました。校庭の木々は葉を落としていますが、その根の下では春に向けて新しい芽を育てる準備をしています。子供たちもまた、次の学年に向けて力をたくわえる時期を迎えています。12月は、一年を振り返る月です。できるようになったことを思い出すと同時に、「誰に支えられてきたか」を考えると、数多くの「つながり」が見えてきます。友達の励まし、教師の声かけ、家族の応援などがあると思います。日々の学校生活は、目に見えない支え合いの上に成り立っていることがとても多いのです。

本校では、「主体的に学びをデザインする児童の育成」副題として～児童が「自己選択」「自己決定」をする授業をとおして～という研究主題を掲げ研鑽に努めています。その主たる授業形態は「自由進度学習」です。そこでは「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実を図っています。各学年の授業実践をとおして、子供たちはそれぞれのペースで学びながらも、互いに教え合い、助け合いながら学習を進めています。そして継続していく中で、自分の学びを大切にすると同時に、友達の学びを支えるそんな姿が少しずつ広がりをを見せています。自由進度学習は、「自分で進める学び」であると同時に、「つながって育つ学び」でもあります。自分の得意な分野を友達に分かりやすく説明したり、逆に苦手なところを友達に教えてもらったりする姿も、あらゆる教室で見られるようになってきたことは、成果の一つとして挙げられます。授業で行っている自由進度学習の取組をきっかけとして、「人とのつながり」が学校全体で意識されるようになり、「ありがとう」「だいじょうぶ」「一緒にやろうよ」そんな言葉が生活のあらゆる場面で聞こえてくるような学校にしていきたいです。

来年に向けて、残り1ヵ月となりましたが、支える姿を称賛し、つながる心を大切にしながら、一人一人の成長と学びをしっかりと見届けてまいります。